

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	7/27/2018
所属学部	大学院 教育学研究科
所属学科・専攻	学校教育学専攻

1. 留学先について

留学先大学名	イリノイ大学シカゴ校							
留学先所属学部等	特別支援教育							
留学期間	出発日	8/17/2017	入学日	8/28/2017	修了日	5/2/2018	帰国日	5/5/2018
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他()					
	通学時間	10分				On campus		
	通学方法	CTA Blue Line (市内を走る電車)						
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室	<input checked="" type="checkbox"/> (2) 人部屋	その他()				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他()	
食事	自炊	90 %	学食	%	外食	10 %	その他	% ()
保険	海外旅行保険(名称)	AIU海外留学保険						
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田(飛行機) ⇄		シアトル(飛行機)			⇄ シカゴ(飛行機)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	2,100,000 円								
出どころ									
自費	<input checked="" type="checkbox"/>	貯金	120,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	アルバイト	200,000 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	家族・親戚	200,000 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	480,000 円	<input type="checkbox"/>	その他名称()				円
その他	<input checked="" type="checkbox"/>	千葉大学助成金	100,000 円	<input type="checkbox"/>	その他()				円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	✓	現金	120,000 円	✓	その他(クレジットカード)	円
留学中		海外送金	キャッシング	✓	その他(クレジットカード決済)	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	\$200 (留学生オリエンテーション費用および通学用フリーパス) クレジットカード決済
住居にかかった費用	約\$9,000 (¥1,000,000) クレジットカード決済
その他	食費・生活費 \$5,348 (¥600,000) 現金・クレジットカード決済

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	\$		249,100	円
海外旅行保険	\$		174,210	円
OSSMA	\$		19,440	円
査証・在留許可証	\$		20,000	円
住居	\$	9,000	1,000,000	円
食費	\$	5,358	600,000	円
通学に要する交通費	\$	0	0	円
教科書、教材費	\$	691	72,000	円
その他大学に支払った経費	\$	200	30,000	円
光熱費	\$	0	0	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 SPED462 Assessment of Individuals	正規	3	有	✓	無
2 SPED463 Literacy Instruction for Diverse Learners	正規	3	有	✓	無
3 SPED506 Characteristics and Assessments of Disabled Children	正規	4	有	✓	無
4 SPED466 Language, Development, Diversity, and Disability	正規	3	有	✓	無
5 SPED508 Methodology and Assessment for young children w/ Disability	正規	3	有	✓	無
6 ASP094 Academic & Professional Writing	聴講	3	有	✓	無
7 DHD494 Disability and Education	正規	4	有	✓	無
8			有		無
9			有		無
10			有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

現地のコーディネータとの相談および、履修登録シラバスを参照して決定。最終的には初日のガイダンスで授業を担当する教授に直接話すかメールでの受講許可をとってから履修登録。Webでの履修登録が必要で、科目の中には教授の受講許可が前もって必要なものも存在する。

自分の場合は、研究分野に必要な知識を得ることと、より実践的な学びを求めたため、“Instruction(講義形式)”の授業と、“Discussion(ディスカッション形式)”の授業の両方を選択し履修した。大学院の授業は基本的にディスカッション形式の授業が多くなっているため、講義形式の授業は少ない。

3-2. 授業内容、方法に関して

SPED (=Special Education) は特別教育分野で、学習障がいや発達障がいの子どもたち(特にPre-K ~ 12)の学習・行動についてのアセスメントツールの練習を授業内で行い、実際に小学校で「学習・発達に遅れの可能性がある」子どもを対象にしたフィールドワークを通してレポート作成およびプレゼンテーションを行った。

DHD (=Disability and Human Development) は障がいと発達に関する分野でより社会的にみた障がいと人との関わりについての学習を行った。アメリカの社会制度や市民権運動を通して障がいを持つ人々と社会のかかわりを多角的な視点で捉えることを重視した授業であった。

ASP (Academic Success Program) は聴講型の授業で単位にはならないが、論文を執筆する上での気をつけなければならない注意事項や文章を書く際の決まりについて現地の流儀を学べたのでよかった。

3-3. 語学力について

特に変化はない。文章を作成する能力は格段に高まり、論文を読むスピードは高まったが、対話の面に関してはいまだに流暢とまではいかないし、頭の中で数秒単語や表現を吟味する時間が必要に思う。コミュニケーション能力に関しても渡航前とはさほど変化はない。

3-4. 図書館や学習施設に関して

学校附属の図書館は、誰でも使用可能で学外の間も自由に入館・閲覧が可能。また、English Exchangeといって、留学生等を対象に英語で会話をする会が毎週金曜日の15:00~16:00あたりにAcademic Center for Success で開かれており、主催のAudrey Zenner教授は 前述にあるASP094の教授でもある。

3-5. その他

中国・台湾とインドからの留学生が多く、UIC は(University of Indian and Chinese)との異名がつくほどである。

4. 生活面

4-1. 住居について

学生寮： 西キャンパス SSR(Single Student Residence) 809 South Damen Ave. Chicago, IL

寮費：100万円（月10万）＝高い

寮費は Semester 払いで、Fall（10月末）とSpring（3月末）あたりに締め切りになる。西キャンパスは大学院生が多く、個室の部屋が多い代わりにイベントは少なく、いたって静かな場所である。冷暖房は集中管理されており細かな設定の変更・調節は不可能。東キャンパスの方にはベッドルームを2人で共有するなどプライベートはあまりないが、安くて教育や市街地からほど近い寮が存在するため、学部生も多く賑やかである。両方の学生寮にジムが附属しており、学生は自由に機材を使用できる。

4-2. 食生活について

基本的には自炊。食事は寮の共有スペース（2人で共有）で調理していた。ルームメイトとは特に深く干渉し合わなかったが、たまに面白いものを作ってはお互いに食べ比べをしていた。外食する場所やスーパーに出来合いのもの（ピザや冷凍食品）などはたくさんあるのだが、自分1人で食事をするだけなら自炊の方がよいと判断した。

調理器具などは何一つないので（電子レンジも）、フライパンと鍋、備え付けのオーブンを主に使用。鍋で米を炊くことができるので日本的な食事をする事ができた。お好み焼きもソースとマヨネーズさえ入手すれば（電車で15分のところにアジア系スーパーあり）、激安キャベツとベーコンで美味しくできる。とてもおすすめ。

友達と外食する際はピザ、ラーメン、インドカレー、ハンバーガーを食した。レストランで食事をするときチップが必要（18～22%）なので、現金か、少人数ならカード決済も可能。一回で\$20はするため月に1～2回行けばいいと思っている。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

Softbank の「アメリカ放題」（加入料無料）でアメリカの携帯会社 Sprint の電波を使用することができる（回線速度はやや制限がかかっている模様）ので、Wi-Fi ルーターを借りずとも長期滞在が可能。また、学内のwi-fiや寮のwi-fiもなかなか優秀なので、インターネット環境で困ったことは特になく（電車の中はとびきり弱くなるので乗り換えは前もって検索しておくのが吉）。もしこれらの対策が鬱陶しい場合は現地の携帯会社と契約するのが良い。

4-4. 服装について

北海道函館市と同緯度なので、基本的には北海道の気候帯（亜寒帯）をイメージしておくのがよい。夏も猛暑になることはほぼなく、夏日（25～30℃）が多い。また、かなり乾燥した地域（内陸の平野）のため、カラッとした夏で過ごしやすいといえよう。

冬は覚悟したほうがよい。-4℃までは東京の冬場の装備でまだ耐えることができるが、それより気温が下がるとほぼ確実に雪は降るし体をおおう丈のダウンコート・ニット帽がないと凍傷は免れない。ユニクロは優秀。

4-5. 健康管理について

乾燥には注意が必要。夏場も乾燥はするし、冬は過酷な寒さに負けないように朝出かける前と夜眠る前の保湿は必須。ニベアは手に入るので愛用していた。風邪はあまりひかないが、もし熱っぽくて困ったら薬局の人に聞くとオススメの薬(レモネードに風邪薬が入ったもの)など市販でも効力の高いものを教えてくれる。

風が強いことで有名な街なので、天気予報の気温だけをみて外に出ないほうがよい。体感温度はより低い。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

特にない。

4-7. 課外活動について

現地の小学校に週2回(8:00～15:30)のペースで実習(フィールドワーク)をしていた。ASD(Autism Spectrum Disorder)＝自閉症の可能性でIEP(=Individualized Education Program for Children with disability)＝個別の指導計画を受けている児童を対象に観察、アセスメントの実施、言語・算数能力の向上を図る教育的介入の実践を約半年間行った。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

高校の修学旅行でお世話になったホストファミリーに感謝祭の日や到着・出発に際して援助や案内をしていただくことができた。また、English Exchangeで一緒になった学生たちと観光やイベントに参加することができた。

4-9. 日本から持参してよかったもの

鯉だし顆粒、コンソメ、カレールウ、お菓子、折り紙、書道セット、甚平、S字フック

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

お風呂の防カビくん煙剤(寮の清潔さ加減によっては使用する予定だった)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

電車は降りる人優先しない、信号は渡れる時に渡る、電車のなかでタバコを吸うとアナウンスで怒られる、路上ライブはどこでもやる、お金をくれくれする人は電車の中にも入ってくる、お会計の時に挨拶する、お会計の時にレジ袋はあるかと聞かれる、お会計するときは商品をカゴからだしてベルトコンベアに載せる。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

2017年11月感謝祭(10日間)、テキサス州ヒューストンにホームステイ。
食費は特にかからず、お土産に1万円。渡航費もステイ先に出していただけた。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

寮から徒歩7分のところに人工芝のサッカーコート兼野球場があり、平日は特に誰もいないので自由に使用することができた。また、食事を作ることもいい気分転換になった。
→友人と運動をしたということです。時には個人練習もしました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

UIC (University of Illinois at Chicago)は教授たちのサポート、授業で一緒になった学生たちとの協働・交流が盛んでグローバル感溢れる学びの場となっている。民族の多様性を特に強く感じる事ができるのでこれからの国際グローバル人材のためにはいい経験ができると感じた。自身の経験はどうあれ、多様な文化が混ざりあい、新しくシカゴの文化・習慣として構築された環境に身をおくことは重要だと思う。

シカゴの市街に程近く、学業だけでなく文化や歴史・芸術に触れる機会が多いことも魅力の一つと言える。Museum Week では学生証を見せるだけで無料で入館できる美術館なども存在するためかなりお得。
→Museum Week は大体1月の第二週です。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

大学院で留学を考えている場合、特に教育系であればなおさら、単位と免許の取得状況をよくよく計算して無理のない留学計画を早い段階から周囲の友人・教授たちの協力を得つつ行くと良いでしょう。

5-3. 留学を終えて

派遣を終えて、語学力には自信がついたかと言われれば今までとあまり変化はなく、話しかけられれば話すし、的確に受け答えはできていると自覚している。それよりも友人関係、教授たちとのコミュニティーを作ることができたのは大きな収穫であったと考える。修士論文の執筆に際しても協力を得ることができた上に、日々のメッセージ交換などから、現地の近況なども知ることができ良い関係であると言える。また、多文化間でのコミュニティー形成により、自国の文化を発信できる存在として周囲から期待をされることも多かった。その際に、ある程度広い範囲の知識を各分野において身につけていたつもりであったが、政治・宗教・貿易において、他国の学生からの関心に対して反応があまり的確でなく、自国の文化や外交・政治的ニュースについてももっと詳しく知らなくてはいけないと痛感した。今後はさらに自らの知識と経験を積み重ね、より優れた国際人として国際社会に貢献できる人間になるよう全力をつくしたいと考えた。